嵯峨野発　文化に触れるひととき

特別企画　声色俳優と全盲ヴァイオリニストがたどる

セツと八雲の『怪談』ばなし

武士の娘セツとの出会いから、日本のこころと民に伝わる物語に深く分け入り、世界の古典的ベストセラー『怪談（KWIDAN）』を描いたラフカディオ・ハーンこと小泉八雲。NHK朝ドラ『ばけばけ』で大人気のふたりの物語を、声色俳優による語りと穴澤雄介が描く怪談話のオリジナル楽曲とともにいざないます。

演目：『お貞のはなし』『幽霊滝の伝説』『雪女』

出演：穴澤雄介（ヴァイオリン・ビオラ・作曲）
岩城朋子（声色俳優・語り芝居）　野田正純（ピアノ）

日時：2026年11月29日（日）

時間：お食事付きの方　会食11時半～（受付11時）
公演　12時45分～14時45分（開場12時30分）

会場：料亭 嵯峨野　福岡市博多区住吉2-21-19

※交通：JR博多駅より車で10分／地下鉄七隈線「渡辺通駅」「櫛田神社前駅」より徒歩9分

会費：20,000円（お食事付き）・10,000円（公演のみ）［税込］

主催・ご予約：料亭 嵯峨野　TEL. 092-271-5745（ご予約はお電話またはQRコードから）

後援：小泉八雲記念館　協賛：穴澤雄介 Officia 1Fan Club



嵯峨野発　文化に触れるひととき

全盲ヴァイオリニストと声色俳優®がたどる

セツと八雲の『怪談』ばなし

原作：『怪談』（小泉八雲著 / 平川祐弘編）・『思ひ出の記』（小泉セツ）　脚色：岩城朋子+桂いちほ　後援・監修：小泉八雲記念館

明治23（1890）年に来日したラフカディオ・ハーンこと小泉八雲（1850-1904）は、英語教師として松江に赴任。松江での暮らしから日本に残る精神文化に深く分け入り、武士の娘である小泉セツ（1868-1932）との出会いにより、口承による日本の民話に興味をもち、その生涯を通して数々の名作を遺しました。代表作『怪談』は、原話に込められた真理を読み解き、語り手の個性や時代感覚を加えて文学的に語り直す“再話”という方法がとられました。繰り返されるセツの語りを土台に、西洋の読者にも届くような、情景や感情を描写してゆくのです。まさに八雲とセツの稀有な出会いと、かけがえない日々から育まれた『怪談』は、出版から120年経たいまも世界中で読み継がれています。本公演では、視覚に障害のあった八雲が注目した「語り」にこだわり、子どもの頃から八雲ファンという穴澤雄介によるお話ごとのオリジナル楽曲とともに、ふたりの足跡をたどります。



画像提供：小泉八雲記念館



穴澤雄介

（ヴァイオリン・ヴィオラ奏者、作編曲家、ラジオパーソナリティー）

心臓と目に障害があり、高校時代にほぼ視力を失い、現在全盲。NHKテレビでの東京・北京、パリオリンピック・パラリンピックのユニバーサル放送にコメンテータ兼演奏者として計17日出演。NHK『視覚障害ナビ・ラジオ』にも毎月出演中。ドキュメンタリー映画『光をみつける　ヴァイオリニスト穴澤雄介からのメッセージ』が2023年より公開。これまで21枚のCDをリリース。第7回ゴールドコンサートでグランプリ他、受賞多数。フランス、シンガポール、アゼルバイジャン等、海外でも活動。『見えなくなったら希望が見えた』、『光をみつける』、二つの著書も出版。



岩城朋子

（声色俳優®・語り芝居）

福岡県出身・在住。朗読の世界でタブーとされる声色を使い分け、語り芝居という独自のジャンルを開拓。古事記など日本の歴史を題材にした物語や童話のほか、フランスシャンソン界など広いジャンルをテーマに、自ら脚本も担当。オリジナル作品に『天の岩戸開き』『西遊記』他多数。『ふたりのピアフ』はシャンソン歌手の浜砂伴海とピアノの野田正純との共演で2025年公演10周年を迎えた。声色俳優®は2025年に商標登録。



野田正純

（ジャズピアニスト、オルガニスト、作編曲家）

長崎県佐世保出身、国立音楽大学ピアノ科卒業。在学中より菅原洋一をはじめシャンソン、カンツォーネ、タンゴ、ジャズなど色々なジャンルの演奏や伴奏を行う。20代後半から約10年間、ハモンドオルガンの指導やコンサートで東南アジア7ヵ国を回る。また、首都圏、関西、広島、九州各地で後進の指導を行い現在に至る。30代からは高齢者のための音楽療法を始め、九州では緩和ケアでの療法も行っている。『初心者のための実践ジャズ理論』（サーベル社）をはじめ著書、監修本は50冊を超える。穴澤雄介氏とは2007年頃よりライブやコンサート、レコーディング等で絶賛演奏中。



福岡市博多区住吉2丁目21-19　TEL. 092-271-5745　https://www.hakata-sagano.com/